

次の図1・図2は、風に乗って運ばれた土壌の分布地域などを示している。これらの図を見て、次ページ以降の問に答えよ。(40点)

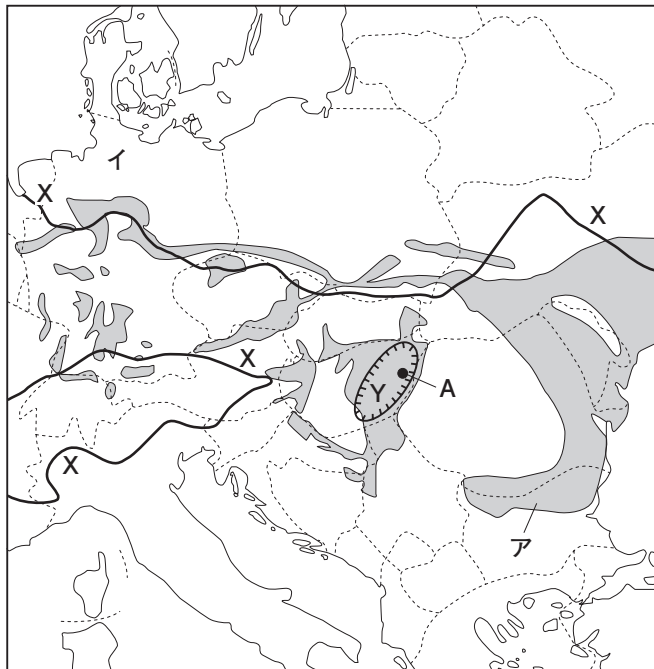


図1

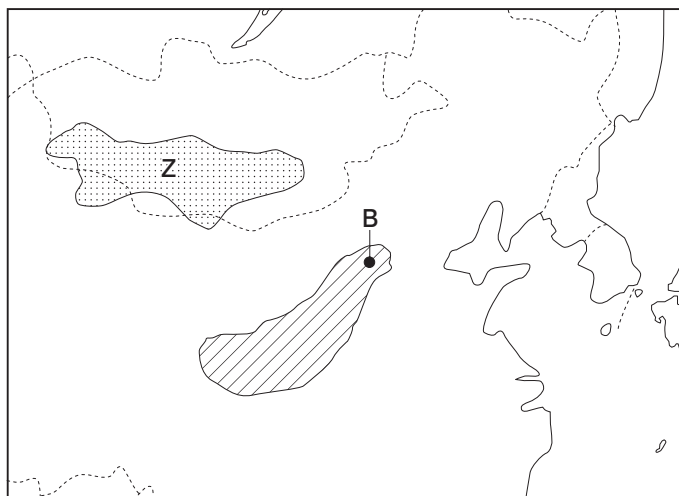


図2

問1 次の表1は、図1・図2に示した都市A・Bの月平均気温と月別降水量を示したものである。都市A・Bが属する気候区を、A—○○のように答えよ。なお、気候区はケッペンの気候区記号で答えること。(4点)

表1

|   | 月   | 1    | 2    | 3    | 4    | 5    | 6    | 7    | 8     | 9    | 10   | 11   | 12   | 全年    |
|---|-----|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-------|
| A | 気温  | -1.4 | 0.1  | 5.3  | 11.2 | 16.6 | 19.3 | 21.3 | 20.8  | 16.0 | 10.6 | 4.7  | -0.1 | 10.4  |
|   | 降水量 | 29.8 | 33.4 | 31.4 | 53.0 | 66.6 | 66.5 | 64.8 | 49.1  | 47.5 | 37.9 | 41.3 | 43.6 | 564.9 |
| B | 気温  | -4.9 | -1.1 | 5.0  | 12.8 | 18.4 | 22.1 | 24.0 | 22.1  | 17.2 | 10.4 | 2.8  | -3.3 | 10.5  |
|   | 降水量 | 3.0  | 4.7  | 12.5 | 18.5 | 43.7 | 55.2 | 93.9 | 102.4 | 68.5 | 27.2 | 10.9 | 2.6  | 443.1 |

気温の単位は℃、降水量の単位はmm。1981～2010年の平均値を示している。

気象庁「世界の天候データツール」などにより作成。

問2 図1中の線Xは、ある地形に関する境界を示しており、A地域には、ある間帯土壌が分布している。線Xの表す境界が何かを明らかにし、A地域とドイツ北部に位置するI地域との、土壌の特徴や成因の違いについて、併せて90字以内で説明せよ。(9点)

問3 図1中の都市Aを含むY地域に広がる長草草原の名称を記せ。(3点)

問4 図2中のZは、斜線で示した部分に分布する堆積物の供給源となった砂漠の位置を表している。この砂漠の成因と砂漠の成因による分類名称を、Z砂漠の名称を明らかにしつつ、併せて60字以内で説明せよ。(8点)

問5 図2の斜線で示した地域内には、この地域の土壌や気候を利用して作られた、洞穴式の伝統的住居が見られる。斜線で示した地域の自然的な特徴と、この伝統的住居の利点と欠点について、以下の語句を全部用いて併せて90字以内で説明せよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。(10点)

気温差 崩壊

問6 図2の斜線の範囲は主に畑作地域を示している。この地域は、日本に飛来する黄砂の発生地の一つにもなっており、1970年代から2000年代初めまでは、日本の黄砂の観測日数は増加傾向にあった。また、次の表2は、日本における月別の黄砂観測日の平均値を示しており、表から黄砂は主に春季に多く見られることが読み取れる。これらの現象が起きる原因を、環境面からの要因と、季節面からの要因の双方から併せて60字以内で説明せよ。(6点)

表2

| 1月  | 2月  | 3月  | 4月  | 5月  | 6月  | 7月  | 8月  | 9月  | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 0.2 | 1.2 | 4.4 | 6.2 | 2.7 | 0.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.2 | 0.4 | 0.2 |

単位は日。統計は、日本全国11地点について、1991～2020年の平均値。

気象庁資料により作成。